

日本がん分子疫学研究会 ニュースレター

2008年10月
Vol.9, No.1

事務局：〒466-8550
名古屋市昭和区鶴舞町65
名古屋大学大学院医学系研究科予防医学/医学推計・判断学内
TEL：052-744-2132

「がん予防大会 2008 福岡」を終えて

九州大学 生体防御医学研究所 中別府雄作

平成20年5月22～23日の2日間、福岡市の九州大学医学部百年講堂に於いて、第15回日本がん予防学会（会長：古野純典）、第31回日本がん疫学研究会（会長：古野純典）および第9回日本がん分子疫学研究会（会長：中別府雄作）による合同学術集会「がん予防大会 2008 福岡」が開催されました。

これら3つの研究会・学会の合同開催は、今年の「がん予防大会

in Tokyo 2007」に続いて2回目です。「がん予防大会 2008 福岡」には約200名の方々に参加いただき、大変活発な大会となりました。この場を借りて、参加された皆様に厚く御礼申し上げます。

2日間の特別講演、ポスター発表、ワークショップにおいて「分子、個人、集団を対象にした多様ながん研究の成果」が数多く発表されるとともに、「がん予防大会」

の大きな目的である我が国におけるがん予防戦略のあり方について、会期中を通して有意義な議論が交わされました。

今後も、日本がん予防学会、日本がん疫学研究会および日本がん分子疫学研究会による合同学術集会「がん予防大会」が「我が国におけるがん予防戦略のあり方」を提言する場として益々発展することを願っております。

CONTENTS

「がん予防大会 2008 福岡」を終えて 中別府雄作	・・・1
がん予防大会 2008 福岡に参加して 荒金尚子	・・・2
第9回幹事会議事録	・・・3
事務局からのお知らせ	・・・4
編集後記	・・・4



招待講演
Prof. Yoon-Ok Ahn
司会：青木國雄先生



若手研究者講演
織田信弥先生



北川知行先生のご挨拶

懇親会



ポスター発表



会場の様子



教育講演
廣畑富雄先生

司会：小林博先生



がん予防大会 2008 福岡に参加して

佐賀大学医学部・内科 荒金 尚子

今回の合同大会では、がん分子疫学研究の観点から「酸化ストレスと発がん」、日本がん疫学、予防学会、日本がん疫学研究からは「食物・栄養とがん予防」が、合同シンポジウムとして発表された。前者では、酸化ストレスによって引き起こされる酸化的 DNA 損傷である 8-OH-dG とその修復関連遺伝子について報告された。また、慢性的な酸化ストレスはゲノム増幅や欠損を生ずることが示され、ゲノムの中のどの領域が酸化ストレスに影響されるかを検討する” oxygenomics” という概念が提唱された。8-OH-dG は、酸化ストレスのバイオマーカーとしても有用であり、高精度自動分析法の開発は、がん予防、環境化学物質のリスク評価、がんの発症予測などへの応用が期待される。酸化ストレスによる DNA 損傷の修復機構解析では MUTYH、MTH1、OGG1 の関与と発がん機構における役割の相違、ヒト家族性大腸ポリポーシスにおける MUTYH 多型の発見、肺がんにおける OGG-1、MTH1 多型と発がんリスクとの相関が発表された。発がんの重要な因子である酸化ストレスによる DNA 損傷の修復に

おいて、引き起こされる個々の修復機能の相違を修復関連遺伝子多型の違いより推測することにより、今後、オーダーメイドの発がんリスク予測、がん予防への応用へとつながるのではないかと期待される。若手研究者講演では、九州がんセンター臨床研究部の織田信弥先生が、突然変異蓄積と大腸発がんについて講演された。大腸がんの 3 大遺伝子である p53、K-ras、APC の突然変異は約 2/3 が G:C→A:T 変異であり、MGMT 異常によるミスマッチ修復異常が大腸がんにおける主要遺伝子変異の原因である可能性が示唆された。ワークショップ (1) 分子疫学では、肺がんにおいて EGF 受容体の遺伝子多型と EGF 受容体変異との関連や、IRF3 遺伝子の SNP が肺がんの発症リスクに関与することが報告された。また、PTPN11 多型と萎縮性胃炎との関連をウズベキスタンと日本で比較すると相反する結果であったこと、胃がんにおける epi-genetic change として IQGAP2 遺伝子のメチル化がみられ、その深達度、予後との相関について報告された。また、血清可溶性 Fas 値が上昇すると全がん死亡リスク

が高くなることが示され、がんの予測因子となることが示唆された。2 日目の教育講演は九州大学名誉教授の廣畑富雄先生が「食物・栄養・運動とがん予防；世界的展望」というタイトルで、2007 年 11 月に発表された ” Food, Nutrition, Physical Activity, and the Prevention of Cancer: A Global Perspective; AICA/WCRF 刊” の紹介をされた。世界中の文献をレビューし、がんのリスク要因、リスク軽減要因について 4 段階の評価を行い、それに基づいて 10 か条の勧告が記載されている。今後のがん予防のみならず、他の生活習慣病の予防についても規範ともいえる文書である。

発がん機構の基礎的解析より得られた種々の研究成果からがん予防への応用まで、幅広く“がん予防”について討論できる唯一の学会であると感じた。最後に、「是非この学会から臨床へ応用される研究が生まれることを切に願う。」という癌研究会名誉所長北川知行先生の懇親会でのコメントが強く心に響いた。

第9回日本がん分子疫学研究会幹事会議事録要旨

平成20年5月22日(木)-23日(金)に福岡の九州大学医学部百年講堂にて、第9回日本がん分子疫学研究会(中別府雄作会長)・第31回日本がん疫学研究会(古野純典会長)・第15回日本がん予防学会(古野純典会長)による「がん予防大会2008福岡」が開催された。22日に幹事会ならびに総会が開かれ、幹事会の議事内容は以下の通り。なお、幹事会での報告内容と決定事項はすべて総会でも承認された。

日時：平成20年5月22日(木)
13:00~14:00

場所：九州大学医学部百年講堂内会議室

出席者(敬称略)：菊地正悟、北川知行、古野純典、酒井敏行、清水憲二、梶村春彦、末岡榮三朗、園田俊郎、田島和雄、津金昌一郎、中地敬、中別府雄作、森満、湯浅保仁、浜島信之(司会)の15名。高橋隆、林慎一、樋野興夫3名から委任状が提出された。定足数は幹事25名の3分の2で17名、委任状3名とあわせて18名となり幹事会は成立。事務局として若井建志、内藤真理子(名古屋大学)が同席した。

I. 平成19年度活動報告

1. 研究会活動報告

(1) 第8回学術集会：平成19年

7月12-13日に東京の学術総合センターで樋野興夫会長のもとで開催された。

(2) ニュースレター：9月(Vol.8 No.1)と3月(Vol.8 No.2)の2回発行された。

(3) ホームページ：菊地幹事のもとで、適宜更新された。

(4) 会員数：平成19年度の新入会は3名、退会は9名であった。休会中1名を除く平成20年3月31日現在の会員は合計154名(1法人を含む)であった。なお、4月以後の新入会は7名、退会は1名であることが報告された。

2. 平成19年度会計報告

平成19年度の会計報告(古野、清水両監事による監査済み)が行われ、承認された。

3. 平成20年度予算案

浜島会長より平成20年度予算案が提示され、原案どおり承認された。

II. 役員の選出

幹事(任期3年)：林幹事、古野幹事、末岡幹事が任期満了となり、再任された。

監事(任期の規定なし)：清水幹事、古野幹事の継続が承認された。

編集担当幹事(2年毎に交代)：末岡幹事(継続)、津金幹事(新規)が承認された。

III. 平成20年度の活動方針

1. 次期学術集会について

菊地正悟次期学術委員長(愛知医科大学)より、平成21年度(第10回)学術集会の日程が説明された。期日：平成21年6月16日(火)、17日(水)

場所：愛知県がんセンター国際医学交流センター(名古屋)

次期学術集会も本年度同様に2研究会1学会の合同学術集会で行われる。第16回日本がん予防学会は名古屋市立大学の白井智之先生、第32回日本がん疫学研究会は愛知県がんセンターの田島和雄先生に会長が決定している。

2. 次々期学術委員長の選出

次々期(平成22年度)学術委員長に、札幌医科大学の森満幹事が選出された。

3. ニュースレターおよびホームページの方針

ニュースレターは例年通り年2回とし、ホームページもこれまでと同様の予定であることが承認された。ホームページ更新は、菊地幹事に引き続き担当することになった。

4. 他学会・研究会との学術集会の共同開催・合併について

日本がん疫学研究会との合併について検討を行うため、両研究会から委員を選出し連携協議会を設立することが承認された。本研究会からの委員は、北川、中地、湯浅、梶村、浜島の5名が選出された。

2008 年度年会費納入のお願い

2008 年度（2008 年度以前の年会費が未納の方には 2008 年度+未納年度分）の年会費振込用紙を郵送いたします。ニュースレターを郵送希望の会員の皆様方にはこのニュースレターとともに、ニュースレターを E-mail に添付してお送りします会員の皆様には年会費振込用紙のみ郵送させていただきます。なお、所属、ご住所、お電話番号など、変更がありましたら、メール（jscme@med.nagoya-u.ac.jp）か、FAX にてご返送お願い申し上げます。

日本がん分子疫学研究会事務局
〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65
名古屋大学大学院医学系研究科予防医学/医学推計・判断学内
電話 052-744-2132 FAX 052-744-2971
E-mail: jscme@med.nagoya-u.ac.jp

編集後記

田舎に帰省した際にサルの軍団に遭遇しました。田舎生まれの自分としてはあまり珍しい光景ではありませんが、同級生に聞くと最近是人里に定住して田畑を荒らしているようです。酷暑のせいもあるかもしれませんが、過疎化の影響でいわゆるバイオトープ（野生動物の生活の場）が破壊されてきているのだそうです。シカ・イノシシ・サルなど増えて生態系のバランスがくずれると、自然の破壊にもつながります。我々の体の健康も同様なことがいえそうです。最近のバナナダイエットのように、この成分あるいは食品がいいとなるとそればかり。知らない間にかえって自分の体を傷つけていることに気づかないまま健康志向に走っている人が多いような気がします。外来では多くの患者さんや家族の方から、がんの予防法やがんに関わるサプリメントなど様々な内容の相談を受けます。なかなかゆっくりとお話しする時間も、現在出回っている健康食品についての十分な知識も持ち合わせていない自分としては対応できないのが現状です。診療形態も多様化する中で、今後このような疑問に対応する「がん予防外来」なるものがあったらいいのではと考えるこのごろです。（末岡）